

令和 6 年 5 月 2 4 日

高根地区第 1 回学校運営協議会会議録

本高根地区第 1 回学校運営協議会の会議結果は、次の通りです。

日 時	令和 6 年 5 月 2 4 日（金）
場 所	高根小中学校 会議室
出 席 者	柳沢・日野・行成・渡辺・菌部・阿部・河本・平井・校長 ・日高市教育委員会参事・指導幹
欠 席 者	大澤・松本
審 議 事 項 及び決定事項等	1 会長選出について 【決定事項等】 会長：柳沢 副会長：阿部 2 令和 6 年度高根小中学校の経営方針の確認及びグランドデザインの承認について 【決定事項等】 各校長が説明→承認 3 開校直後の学校の児童・生徒・教職員の状況 4 学校・地域合同運動会・体育祭に向けての意見交換
会 議 資 料	1 日高市立高根小中学校経営方針及びグランドデザイン
会 議 の 経 過	1 令和 6 年度高根小中学校の経営方針の確認及びグランドデザインの承認について 校長：3 月の学校運営協議会では経営方針のみの承認だったため、グランドデザインを中心に校長より説明。 委員：「児童」「生徒」の使い分けはずっと続けるのか。 指導幹：普通は小学生が「児童」、中学生が「生徒」。 委員：正式な場だと使い分けするのだろうが、会議の中では「子どもたち でどうか。 委員：一緒になったのだから、同じでもよいかもしれない。 2 開校直後の学校の児童・生徒・教職員の状況 校長：思ったよりも違和感を感じることなく子どもたちはスタートできた。教職員も、前期、後期で打合せをする光景が見られる。人間関係のトラブルはない。朝会等、準備がまにあわなかったものが課題

である。

委員：登校する生徒に話しかけると、お兄さん、お姉さんらしくふるまっているようだ。

校長：引き渡し訓練時、前期課程は騒がしかった。流されて、後期課程も最初は落ち着きがなかったが、「君たちは今までどういうふう
に振る舞ってきたのかな」と声をかけたら、そこから後期課程の
自覚も出てきた。

委員：後期課程と前期課程の子が遊んでいた。子どもが「合併したんだ
よ」と教えてくれた。「7年生と呼ばれる気持ちはどう？」とき
いたら「最悪」と答えた。「中学1年生」のほうが新鮮なのでは
ないか。人生の節目である。

校長：7年生が「中学生」と言われたかったのでは？大人として扱って
もらう感じがする。

委員：「中学生になった」といううれしさと「7年生になった」という
うれしさは違うのでは。

委員：「7年生」を誇りと思ってくれるとよい。

指導幹：法の改正があり、義務教育学校が新しくできた。印象として、
子どもがどう思うか、誇りを持つような教育をするべきである。

委員：1・2年生の見守りをしているが、5月になるまで低学年の子は、
7年生と交わるのかと思ったが、交わらなかった。今週になった
ら急に入り乱れて、あいさつしたり交流するようになった。だん
だん慣れてきて、変わっていくのではないだろうか。

委員：先生方の持ち時間は変わったのか？

校長：加配がつき、前期課程に10時間入っている。5～6年生と7年
生は後期課程の先生が教えてくれている。

委員：先生方の抵抗感はないのか？

校長：ほとんどなかった。始まって特に課題はなかった。

3 学校・地域合同運動会・体育祭に向けての意見交換

委員：昔から言われている。

委員：今年がチャンス。今年やるのが最高の出発点。今現在、高根地域
全体でやるのは、体育祭とラジオ体操だけ。

校長：昨年度のプログラムを見ても、出場は小学生や中学生がほとんど。
体育の授業の発表会という意味では、若干抵抗はあるが、体育主任
がプログラムのたたき台を作ってくれている。教職員も前向きに考
えてくれている。

委員：ここ数年はお年寄り向けプログラムばかりだった。

	委員：昨年は準備段階までしていた。昨年度のプログラムも参考にしながら計画を立ててもらいたい。 委員：地域でおみこしを所有している。処分するにあたり、体育祭で披露目できたらよい。自治会のサークルでそういった構想もある。 委員：子どもみこしもある。要検討でおねがいします。 校長：学校では「ふるさと科」に取り組んでいる。地域の文化を継承していく意味でも大事なことである。この地区に高校はないから、家はここにあっても、この地区を1回出て行く。その後、高根地区に戻ってもらえるような子どもたちを育てたい。体育祭に関わらなくても学習で使える。
--	--